

あんじゅんぐん

とうしち

安重根と千葉十七の友情を“永遠の灯”にしよう

『案内板の設置』『碑前祭の再開』⇒実行委の結成へ？



「日韓友好の真の未来を念じて」をスローガンに、『安重根と千葉十七の碑前祭』と『大林寺への案内板』の復活を目指す「全県学習のつどい」が、二月二十四日に大林寺の現地・栗原市若柳公民館で開催されました。国賠同盟・県本部が「主催・呼びかけ団体」、栗原九条の会と日朝協会宮城県支部が「協賛団体」となり、県内多くが「賛同団体」に名を連ねていただきました。

現地・若柳で『安重根の東洋平和論』を学習

大林寺護持会と斎藤泰彦住職の主催

で、日韓友好の絆「安重根義士と千葉十七居士の追悼法要」が三八回にわたって開催されてきましたが、斎藤住職の病気で二〇一八年以来開催されていません。そこで昨年十一月に栗原九条の会と国賠同盟が相談会を持ち、今回の「つどい」を開催することになりました。

「つどい」には、会場いっぱい約四二名が参加。地元の菅原勇喜栗原市議の司会のもと、栗原九条の会の門傳仁会長が歓迎の挨拶。講演は大震災県民センター事務局長の小川静治氏が「日韓併合と安重根の『東洋平和論』と題して四〇分にわたり熱弁。【詳細は続報。ビデオテープは貸出・可】会場から、多くの



方々が発言。国賠の横田会長からの運動提起。「顕彰運動が無ければ、記念碑は朽ちてしまうので」①案内板をみんなの力で再建しよう。②今年の秋には「碑前祭を再開しよう。この呼びかけが、参加者共通の想いとして確認されました。

当日発言の主な方々

鈴木健三さん(栗原九条の会副会長)

佐藤一さん(若柳・鍼灸師)

鈴木憲明さん(金成史談会・小川同級生)

呉地正行さん(若柳・がんを守る会)

松田美宏さん(栗原九条の会事務局長)



挨拶する門傳仁会長

宮城版 417 号
2024 年 3 月
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
宮城県本部
〒980-0022
仙台市青葉区五橋
1-5-13
県労連会館 3F
国民救援会 気付
022-222-6458
Fax. 222-6450

「学習のつとめ」参加者の感想と意見

栗原市一迫町Nさん

小川さんから、とても分かりやすい資料とお話を頂き感謝申し上げます。ご指摘のとおり、学校では韓国の歴史を学んでいない訳で自分で探して学び直していかなければいけません。

美里町 Oさん

改めて思い知らされた感じでした。参加者からのお話もとても興味深くお聞きしました。企画された皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。



2024/02

50年前に大学一年生だった頃、大学の先生が「もし韓国や中国に行くことがあれば、その時、心の中でよいから、日本人として一度、頭を下げて欲しい」ということで、強制連行の話などをしてくださいました。半世紀前のことです。それからの50年の間、あつたことをなかつたことにする歴史修正主義は許せません。ちなみに、その先生は川端純四郎先生

です。【意見】歴史を直視しない政治家は、落選させるに尽きます。自分ができることをしつかり果たしたいと考えます。

栗原市一迫町Mさん

歴史を正しく伝える教育の重要性を再認識しました。(一方的に押し切るのではなく、多角的・実証的に公論できるという意味で) そのためには、若い世代へ継承するため工夫が欠かせない。(オープンに、異論を除かず議論するという意味で)

【意見】栗原九条の会でも取り組んでいきたい。

組んでいきたい。

栗原市若柳町Kさん

私たちは、詳しい日韓関係について教育をされていない。知らないことをいいことに、都合のいい論理がまかり通っていると思います。【意見】メンバーとして

て、活動は難しいが、協力していきたい。

2月27日「赤旗」より

碑前祭再開へ
学習のつとめ
富城・栗原

1900年に伊藤博文首相をハルビンで射殺した韓国の独立運動家の安重根(アン・ジョンゴン)と憲兵として安の看守を務めた千葉十七(ちおしち)の碑前祭の再開を目指す学習のつとめが24日、宮城県栗原市で開かれました。参加者は2人の顕彰碑のある大林寺も訪れました。

5年前まで大林寺の齋藤泰彦住職が中心になって毎年日韓の友好を願い、2人の追悼法要を実施してきましたが、住職の病気で中断しています。そこで治安維持法同盟栗原支部の横田有史会長(元日本共産党栗原)が代表となって再開へのつとめを呼びかけ、県内から42人が参加しました。

つとめでは、栗原九条の会の門田会長が歓迎のあいさつをしました。

齋藤住職と交流のある東北大震災復興支援センターみやぎの小川静治氏が「日韓併合と安重根の『東洋平和論』と題して講演。安重根はテロリストだったのか」と問いかけた小川氏は、射殺の理由として挙げた「伊藤博文の罪状が条約を示し、中国、日本の自主独立にもつく東洋平和論を紹介しながら、安には市民レベルの提議と連帯のための思想があつたと語りました。

会場からは、栗原市若柳の県道にあった「安重根記念碑」の案内板を4年前に県が撤去したことに怒りの発言が相次ぎ、設置につながる横田氏がおこなった横田氏が案内板の復活への活動を呼びかけました。

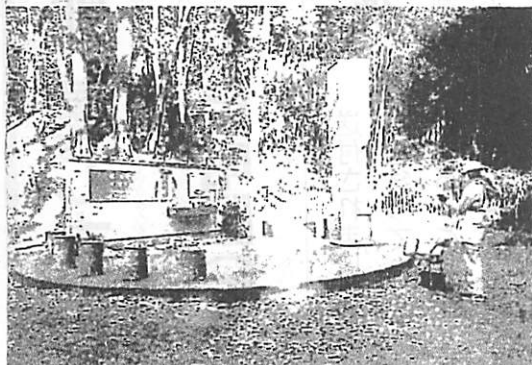
「安重根記念碑の案内板撤去」と「群馬の朝鮮人追悼石碑撤去」

ジャーナリスト

安田浩一・著 「歴史破壊」とこの国の絶望

朝鮮人追悼碑の撤去開始

群馬・高崎 県が行政代執行



朝鮮人労働者の追悼碑の撤去工事を前に、行政代執行開始を宣言する県職員（右端）
＝29日、群馬県高崎市（県提供）

『嫌韓』潮流が勢いを増す中で、全国各地で歴史の書き換えが進行している。侵略戦争の罪過を刻み、アジアとの友好を誓うための記念碑などが、排外主義グループの行動により撤去されているのだ。ヘイトの時代を告発してきた安田浩一氏による、歴史破壊に抗う渾身ルポ。

安田浩一

過去に、目を閉ざしてはならない

***ワイツェッカー・元ドイツ大統領

2020年2月9日発行 東北自動車道・若柳金成の週刊誌「サンデー毎日」は、上インター出入り口に繋がる県道の表題と前文による4ペー道。そこには朝鮮独立運動家・ジにわたるトップ記事を掲載 安重根の記念碑の場所を示す。そのルポの冒頭には、観光案内板が設置されていた。文とともに「学習の『案内板が消えた……』。それしかし、設置者である宮城県が明らかにしたのは昨年9月、この看板を撤去した。』

そして、ルポは群馬県で同じような事態が進行しているとて、日章旗を掲げ「インチキ追悼碑をぶっ壊す！」と集団が叫ぶ「高崎市にある群馬の森・朝鮮労働者追悼碑」の状況を記載。事実、最近、群馬県により撤去された。丁度、栗原の佐藤一氏が河北に投稿。ルポの全

【左が、3月4日掲載 河北 投稿記事】

日韓友好へ歴史見つめて

佐藤 一 75歳

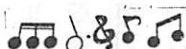
（栗原市・鍼灸師）

私が住む栗原市若柳の大森寺には、初代朝鮮総督の伊藤博文を射殺した安重根の石碑がある。安が収監された刑務所の看守で当地出身の千葉十七が安との交流を通じて贈られた遺墨を刻印したものである。

毎年9月には韓国の安重根義士崇慕館の関係者らが来日し、日韓の負の歴史を学びつつ、草の根交流を催している。私も同館を訪ね交流してきた。互いに歴史を直視し、理解することで、未来の平和友好を築くべく信頼関係を深めている。

このたび、群馬県立公園「群馬の森」（高崎市）にある朝鮮人労働者を追悼する石碑を、県は行政代執行で撤去した。強引な山本一太知事の歴史認識を疑わざるを得ない。再建を望む日本

人は私のみではなからう。10日の東北放送「報道特集」では、この問題を正面から取り上げていた。敬意を表したい。もっと報道してほしい。そして、学校でも、新聞を教育に活用するNIEの一環として取り組んでほしい。山本氏には、ワイツェッカー元ドイツ大統領の言葉「過去に目を閉ざす者は、未来に対しても盲目になる」を贈りたい。



千葉卓三郎「墓じまい」問題

資福寺へ「親書」と「説明版(案)」を郵送

第3回相談会を開催

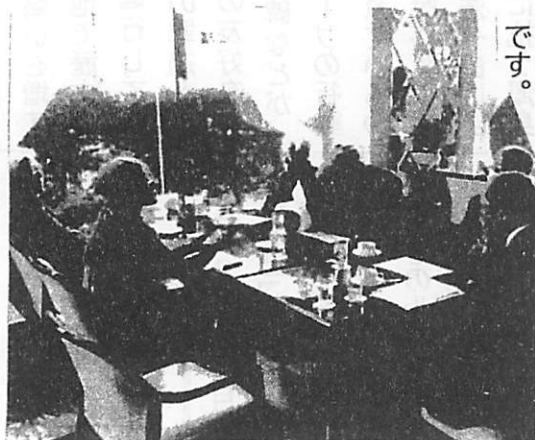
田中克人氏(心のふるさと創生

会議理事長)と板垣乙未生(みやぎ九条の会事務局長)の呼びかけで行われてきた「墓じまい問題の相談会」は、二月二七日に第三回がもたれました。一月五日

日の第二回では、佐藤憲一氏(元・仙台市博物館長)と田中氏が代表して住職とお会いすることになりましたが、にべ無く断られ、「必要なら文書で」とのこと。第三回では、佐藤憲一氏名での「説明・挨拶状」と「標柱」を移設した場合に建てる「説明板(案)」「下記に全文」の文章を協議・確認し、早速、資福寺住職に

送付されました。現在は、その返事 wait しているところです。好転することを願っております。

尚、資福寺で墓じまいされた千葉家の墓は、若林区内の丁寺院の樹木葬に移転され、「卓三郎のお骨」も埋葬されている模様です。



説明版(案)

「千葉卓三郎記念碑」と「五日市憲法」

昭和四十三年(一九六八)夏、東京都西多摩郡五日市町深沢現、あきる野市)の土蔵から「日本帝国憲法」と毛筆書きされた憲法案が発見されました。二〇四条からなるこの憲法案の起草者は「陸陽仙台 千葉卓三郎」。この憲法案の発見者である東京経済大学色川大吉教授とそのゼミのメンバーの調査によつて、千葉卓三郎(一八五二—一八八三)は宮城県栗原郡志波姫町伊豆野(現、宮城県栗原市)出身の仙台藩士であることが分りました。

千葉は五日市町の勸能小学校(現、五日市小学校)の二代目校長を務め、当時盛んだった自由民権運動に地元の人々と参加、明治十四年(一八八二)この憲法案を作ったのでした。千葉の起草した憲法案は「国民の権利」と「国会」についての条文が全体の半分以上の一一五条もあり、国民の権利擁護に重点をおいた憲法案として知られます。千葉をはじめとする五日市地方の人々の英知を結集したものとして、色川教授によつて「五日市憲法」と名付けられました。

「千葉卓三郎記念碑」は、こうした千葉の業績をたたえる顕彰碑です。昭和五十四年(一九七九)十一月十一日仙台市千葉卓三郎記念碑建設委員会(会長 菊地養之輔)によつて、市民・県民六六五名の募金で建てられました。資福寺は千葉卓三郎の墓があつた場所です。碑には「五日市憲法の中から抜粋された六九条(基本的人権の保障、法の前の平等、教育の自由、義務教育、地方自治、人民権利の優位、

女性部・仙台支部

新・学習会

故・本田勝利さんの講演記録

宮城の戦前史を学ぶ

国賠同盟県本部女性部・仙

台支部の学習会は「近現代史」

を終了し新たに、故・本田勝利氏が2008年4月に、国賠協

国事犯の死刑禁止・陪審制度が刻まれた銅板がはめ込まれています。【島野武仙台市長の呼びかけによって】ほぼ同時期に起草地五日市町と千葉の出身地志波姫町に同じ条文を刻んだ顕彰碑が地元有志によって建てられました。

「千葉卓三郎墓地」標柱

この標柱は、昭和五十四年（一九七九）十一月十一日仙台市千葉卓三郎記念碑建設委員会によって、「千葉卓三郎記念碑」と共に建設されたものです。はじめ千葉家墓地内に建てられましたが、令和四年（二〇二二）千葉家の「墓じまい」に伴い、資福寺の許可を得、有志によってこの場所に移設されました。

令和六年〇月〇日

「千葉卓三郎墓地」標柱移設有志の会

（仮称）

釜支部主催で行った講演「現代に生かす宮城の戦前史を学ぶ」1315事件、416事件を中心に『を忠実に製本化したものを学ぶ』になりました。

第一回は2月26日に読み合わせを中心に行いました。「315、416の弾圧事件が引き起」された1928年、1929年はどんな時代だったのか。のテーマでした。

次回は、3月26日（火）2時から仙台市サポートセンターです。テキストのコピーはOK。ぜひご参加下さい。

ドキュメンタリー映画 緊急連絡

生きべくんば民衆と共に 死すべくんば民衆のために

「弁護士布施辰治」



「人の命を尊び、世の中の一人だって差別されていい人はいない、差別されていい文化などないのだ」と戦争に邁進するファシズムにたじろがず日本の侵略戦争に立ち向かい、最も虐げられた朝鮮の民衆の生きる権利を擁護し、戦う人とともに生涯を全うした弁護士布施辰治。どんな弾圧にも屈することなく人間の誇りを輝かせた布施辰治の生き方は、私たちに、大きな共感と、勇気を与えてくれます。

日時 3月17日(日)午後2時～(約1時間30分)

会場 多賀城市サポートセンター1階101会議室

会費 300円



主催 治安維持法国家賠償要求同盟・塩釜支部(連絡先・後藤)

15、416の弾圧事件が引き起「された1928年、19



坂猶興医師第7回墓前祭

宮城県の治療維持法犠牲者国家賠償要求同盟と同塩釜支部は、2月26日仙台市青葉区の日浄寺で第7回目となる坂猶興医師墓前祭を行いました。

治安維持法で

2度、過酷な弾圧

坂猶興医師は、戊辰戦争の責任を取って斬首された仙台湾家老坂英力の孫として生まれ、戦前の東北帝国大学医学部衛生学講師時代の1929年4月16日と1934年10月9日(9・11弾圧)に、治安維持法違反で2度検挙され拷問を受けました。1933年の三陸沖地震津波の被災者救援活動にも積極的に関与しました。

共産党設立・市会議員

民医連運動・平和運動

戦中は雌伏し終戦後、塩竈市の坂病院で医療を続ける傍ら、



坂家の墓の前での記念撮影 2024・2・26

前列右から2人目が坂和夫さん、3人目が野呂アイさん

日本共産党の宮城地方委員会(今の県委員会)の結成にも携わり、地方委員の一人に選出されました。46年戦後初の総選挙に立候補、翌年の塩竈市議選では党公認候補として2位当選、急逝するまでの3期10年間塩竈市議を務め、地域医療への貢献と原水爆禁止運動などの、反核平和活動

や政治革新のために献身的に奮闘しました。

坂和夫さんが父の思い出

妻・はつさんの手記

墓前祭では、塩釜支部の後藤支部長からこれまでの取り組みの経過と、宮城版不屈に掲載された猶興の妻「はつ」の手記が紹介されました。県本部

坂田民医連事務局長が

沖縄から駆け付け挨拶

沖縄での全国総会から戻った足で駆け付けた、宮城民医連事務局長の坂田氏からも挨拶を頂き、坂病院関連施設の職員OWの参加もあって、これまでにない規模となりました。最後に、墓前祭とともに坂猶興と坂病院の歴史を、学び伝える活動の重要性を確認して散会しました。【武藤真也・塩釜】

陽あたり土手に顔出した
親子のフキノトウ(3/3)



政治の春も早く来い